

## NEWS Letter



## 理学部OGによる女性研究者裾野拡大セミナーの開催 7月15日

理学部を卒業し専門職に就いている6人の女性を招き、学部学生・大学院生との交流会が開催されました。企画したのは地球環境学科の長谷見晶子教授で、研究所や企業、官公庁で研究職や専門知識を活かした職に就いているOGから研究や仕事内容を紹介してもらうことで、女子学生・院生が研究者になることも視野に入れた進路を考える機会となることを願ったものです。20人の参加があり、先輩との交流の中で、具体的な研究や仕事内容、職場環境の実情やアドバイスをっていました。



左から 東京大学地震研究所 <sup>たかまさ</sup> 賞雅朝子氏(24期生)  
独立行政法人海洋研究開発機構 佐藤佳子氏(11期生)  
日本海洋事業株式会社 瀧澤 薫氏(19期生)  
ミドリホクヨー株式会社 斉藤八千代氏(23期生)  
株式会社ナルセ 大久保里美氏(23期生)  
国土交通省国土地理院 山田陽子氏(11期生)

東京大学地震研究所のプロジェクト研究員として主に海底熱水鉱床の年代測定を行っている賞雅朝子氏によると、産休・育休・時短の制度が整い利用しやすい環境になってきているが、所属機関によっては取りにくい雰囲気のところもあるということでした。海洋研究開発機構に勤務し、主に年代測定や希ガス同位体測定に従事している佐藤佳子氏も、休暇の制度整備はできたが、事務職などに比べ研究職の環境整備が遅れているところもあるということです。日本海洋事業で主に地下構造探査データの解析を行っている瀧澤薫氏は、採用、業務、昇進等に性別差はなく、採用試験では女性の方が優秀で根性があると言われていたと紹介していました。育休復帰後は乗船業務が難しいため陸上業務に従事できるということです。自動車メーカーの本革カーシート等の製造をしているミドリホクヨーで、品質規格の評価試験を担当している斉藤八千代氏は、学生時代は「まずは就職が先決」という風潮があるが転職も多くなってしまうので要注意。女性が転職する場合、出産と重なると採用が難しくなり、休暇も保障されないので気をつけてほしいというアドバイスがありました。科学機器を扱う商社に勤務し、研究者に機器の情報提供や案内を行っている大久保里美氏は、これからの社会や将来が見えてくる面白い仕事であると語りました。国土地理院の山田陽子氏は、技術職、研究職と専門性が高くなるほど代替要員確保が難しく女性の退職率も高くなるが、女性が早くから採用されている職場ほど働きやすい、と経験に基づいたアドバイスがありました。

この場でしか聞くことのできない貴重な話を受けて、参加した学生から「展望が開けた」「励みになった」という感想が述べられました。

## 「博士・ポスドクのためのキャリアセミナー」を工学部で開催 7月4日

大学の研究職だけでなく企業の研究職について知ることで、高い研究能力を生かせる道を探る機会とするため、博士課程在籍者やポスドク研究員対象のキャリアセミナーを工学部で初めて開催しました。女性3人を含む15人の院生・研究員の方々等が参加しました。

講師の人材コンサルタント長井裕樹氏(株式会社アカリク取締役)から、大学での研究と企業での研究の違い、企業の研究職につく際の留意点、博士ならではの就職活動方法やポイントについて解説があり、その後、個別相談も行われました。個別相談に当たった長井氏によると、将来に見通しを持っていない人、見通しを持っているがアドバイスが必要な人と個々の状況は様々で、今後も個別相談の機会が必要であるということでした。

参加者から、「博士の就活情報があまりなかったので参考になった。」「博士課程進学やポスドクの立場で悩んでいる人は多いと思うので今後も開催してほしい。」という感想が寄せられました。



長井裕樹氏  
「博士ならではの就活ポイントは…」

## 第2回学長・学部長と女性研究者との懇談会

昨年度に引き続き、2回目の学長・学部長と女性研究者との懇談会が各学部等で開催され、和やかな中でも率直な話し合いが行われました。



### ◎基盤教育院

6月15日  
(教職員16人参加)

基盤教育院では、前年の4人からさらに渡辺絵理子准教授、佐藤琴講師の2人の女性教員が増え、6人全員が参加して懇談会が行われました。加納寛子准教授の進行で、自己紹介と自由な意見交換が行われました。

初めに学長から、一昨年10月にできた基盤教育院が充実してき

たことに対する感謝の言葉があり、「どの組織でも女性が活躍できない組織に将来はない、何でも率直に話していただきたい」という挨拶がありました。その後、主に応募と採用に関する話題が中心となり、「審査の段階では女性を優遇するということはない。ただ女性の応募を増やすことが重要だ」「そのためには女子学生を育てていく工夫が必要だ」という話が出されました。最後に櫻井敬久基盤教育院長から、「女性の大学院生が増えてきた。研究者として活躍して欲しい」という挨拶で終了しました。

### ◎農学部

7月25日  
(教職員21人参加)

農学部女性教員全員の参加で懇談会が開催されました。阿部利徳副学部長の進行で、自己紹介後に自由な意見交換が行われました。農学部も女性教員が昨年までの4人から、渡辺理絵准教授、恩田弥生助教が加わって6人になりました。

初めに学長から、「日本社会ではまだ女性の能力が過小評価されている傾向がある。山形大学では何が問題なのかを明らかにしたい」という挨拶がありました。

「女子学部生が増えてきたが修士・博士への進学率は約2割に留まっている。いかに進学を勧めるかが課題だが、ポスドク問題も考えなければならない」「子どもを保育園に預けたばかりの頃は、病

気で迎えに行くことが多く体力的に限界だった。研究継続支援員の存在は大きく助かっている。この制度は継続してほしい」という意見などが出されました。

最後に西澤隆学部長から、「女性が約半数という学部学生の数からみて女性教員はまだ少ない。女性教員から指導を受けた経験がないという学生がないよう、女性教員と学生とがもっとふれあえるようにしたいと考えている」という挨拶がありました。



### ◎地域教育文化学部

8月2日  
(教職員27人参加)

女性教職員7人を含む27人の参加で懇談会が行われました。鈴木漠副学部長の司会で「ワーク・ライフ・バランスの意味とその定着について」を柱に自己紹介を含め、自由な意見交換が行われました。

学長から「大学の男女共同参画もかなり進んできたが、まだ緒に就いたばかり。息長くしつこくやっていかなければならないので、忌憚のない意見を出してほしい」という挨拶がありました。「かつては2時50分開

始の教授会が夜の8・9時まで行われることがあった。今は各種委員会の会議が授業後の夕方にあるので子育て期は時間のやり繰りが難しい」「教授会開催曜日を有効に活用して会議時間を早める工夫をしてはどうか」「同じ子育て期でも個々にニーズが違う。育児支援はチケット制にして自由に使えるようにした方がいい」という意見も出されました。男性事務職員から「子育てをしているので人事異動では家庭の状況を配慮してほしい」という率直な要望が出され、「異動については希望を聞き、血の通った人の動かし方をしたい」という返答がありました。最後に那須稔雄学部長の挨拶で終了し、引き続き17人の参加で懇談会が行われ意見交換を深めました。

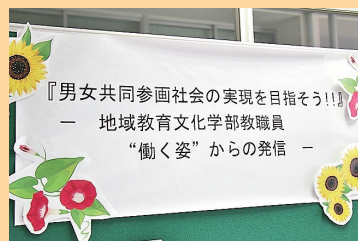


## オープンキャンパスで男女共同参画をアピール

地域教育文化学部 7月30日

7月30日(土)山形大学(小白川キャンパス)でオープンキャンパスが開催され、多数の高校生、保護者が訪れて伝統芸能である笠回しを華麗に演じる学生達の歓迎等を受けていました。

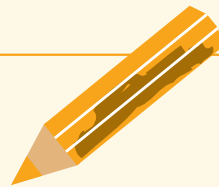
地域教育文化学部では、講義棟の入口に『男女共同参画社会の実現を目指そう!! - 地域教育文化学部教職員“働く姿”からの発信 -』というコーナーを設け、女性研究者の紹介パネルと「男女共同参画早わかり」パネルを掲示し、積極的な取組を紹介しました。パネルに見入る女子高校生や保護者の姿が見られました。





# 上手な自己表現セミナーの開催 6月30日

～自分も相手も大事にするコミュニケーション～



第3回山形大学男女共同参画フェスタ(6月21日～7月19日)の一環として、標記の特別講座を開催しました。昨年11月の全教職員・大学院生対象のアンケート調査の結果、職場や研究室の人間関係で悩んでいる人が多く、女性の大学院生では最も多い悩みでした。そこで、NPO法人アサーティブジャパン代表理事森田汐生氏を招き、アサーティブ・コミュニケーションについて学ぶ機会をもちました。学内外から約50人の参加があり、ロールプレイを交えながら具体的なトレーニングが行われました。

まず、自分自身のコミュニケーションパターンに気づくために、大きく3つのタイプが示されました。攻撃タイプ(人に食ってかかる攻撃的なタイプ)、受身タイプ(自己犠牲的で、踏みにじられても黙っている

タイプ)、作為タイプ(攻撃性を隠して相手をコントロールするタイプ)です。これらは、相手を傷つけたり苛立たせたりしてどれも効果的なコミュニケーションとはいえません。上からものを言うのではなく、飲み込んで抱え込むのでもなく、自分も相手も尊重した上で、誠実に、率直に、対等に、自分の要望や意見を相手に伝えるコミュニケーションがアサーティブ・コミュニケーションです。最近では、ストレスの耐性をアップさせる、あるいは鬱を予防するためのメンタルヘルス研修としても注目されています。参加者からは、「これから活かしていきたい」「日常生活でできるよう頑張っていきたい」との感想があり、アンケート回答者全員が「有意義だった」と答えていました。



「一人ひとりが自分を大切に思えること」  
森田汐生氏の講演



「どのように相手に注意したらよいか」  
参加者によるロールプレイ

## 🌸 あなたも自己評価してみませんか (NPO法人アサーティブジャパン「アサーティブトレーニング」基礎テキストより)

### アサーティブであれば 1(できない)～5(できている)

自分の気持ちを適切に表現できる	1・2・3・4・5
何が必要か自分で決定できる	1・2・3・4・5
ひとの話に耳を傾けられる	1・2・3・4・5
対等な立場で人と接することができる	1・2・3・4・5
率直に要求を伝えられる	1・2・3・4・5
「ノー」と言える	1・2・3・4・5
問題点を指摘するだけでなく、代替案も出せる	1・2・3・4・5
人をほめることができる	1・2・3・4・5
人のほめ言葉を受け入れられる	1・2・3・4・5
正当な批判を受け入れられる	1・2・3・4・5
不当な批判に対してはそれを否定し、自分の気持ちを伝えられる	1・2・3・4・5
建設的な批判をすることができる	1・2・3・4・5
自分の意見を押し通すのではなく、交渉し、歩み寄る準備がある	1・2・3・4・5
新しいことに挑戦する勇気がある	1・2・3・4・5
自分のほしいもの、やりたいことがわかっている	1・2・3・4・5
短所も長所も含めて自分のことが好きである	1・2・3・4・5

### 12の権利

- ① 私には、日常的な役割にとらわれることなく、ひとりの人間として、自分の要求をはっきり伝え、自分のための優先順位を決める権利がある
- ② 私には、賢くて能力のある対等な人間として、敬意をもって扱われる権利がある
- ③ 私には、自分の感情を認め、それを表現する権利がある
- ④ 私には、自分の意見と価値観を表明する権利がある
- ⑤ 私には、自分のために「イエス」「ノー」を決めて言う権利がある
- ⑥ 私には、間違える権利がある
- ⑦ 私には、考えを変える権利がある
- ⑧ 私には、「よくわかりません」と言う権利がある
- ⑨ 私には、自分のほしいものやしたいことを、求める権利がある
- ⑩ 私には、人の悩みの種を自分の責任にしなくてもよい権利がある
- ⑪ 私には、まわりの人からの評価に頼ることなく、人と接する権利がある
- ⑫ 私には、アサーティブでない自分を選ぶ権利がある

## 🌸 男女共同参画関連図書の展示

6月21日～7月19日

男女共同参画フェスタの一環として、国立女性教育会館所蔵の関連図書200冊を、小白川図書館1階の専用コーナーに展示しました。主なテーマは「男女共同参画」「生き方」「コミュニケーション」「セクシャリティ」「大学」です。期間中126回の貸出がありました。人気があったのはNHK出版編『10パーセント脱力生活:カラダ篇』、論吉著『ぼく、長女です。』、大橋由香子著『生命科学者中村佳子』でした。ご利用ありがとうございました。



## 🌸 平成23年度第3期研究継続支援員制度の申込状況など

第1期応募者9人、第2期9人、第3期12人と応募者が増えてまいりました。申し込み内容を見ますと、妊娠中の方、育休明けの方、介護をされている方などの方も切実な理由を抱えています。学長・学部長と女性研究者との懇談会でも研究継続支援員制度の継続を強く望む声がありました。そこで、当初の計画に変更を加え、研究継続支援員制度の方に経費を回すことにして、できるだけ多くの方を支援することにいたしました。また、懇談会でも説明がありましたが、この制度は来年度以降も学内経費で行っていきます。

## 黒沢 晶子 先生

山形大学基盤教育院教授



## ◎研究者へのきっかけは何ですか？

大学時代、国語学を専攻している間に日本語教育の研修を受けたこと、韓国語を勉強したことがきっかけで、修士修了後、韓国の大学で3年、日本語や音声学などを教える機会を得ました。そのとき漢字音に関する教材を作ったことが現在、科研費を受けて行っている研究にもつながっています。

その後、英国へ行き、民間の機関を経てロンドン大学で日本語教育に携わるようになりますが、PhDがないと一人前扱いされないこと

が悔しく、改めてMAから言語学を学び直しました。ところが、PhD候補に昇格したところで夫が帰任。「途中で国に帰って取れた人はいないよ」と指導教授に言われ、自分でもそうだろうと思いき、単身英国に残ることにしました。そのとき、家族が誰も反対せず、夫の両親まで励ましてくれたのは、本当にありがたかったです。

PhDはMAと違い、長い道のりです。いっしょに始めて学位にたどりついた人は半分もいない険しい道のりでもあります。必要なのは、自分のテーマに関心を持ち続けること、身体的に安定し、経済的・精神的な支えがあることでしょう。私の場合、指導教授が声をかけ続けてくれたことも大きな力になりました。

そのころ彼女が取り組んでいたのは「言語理解のプロセスは構文を作る規則・語彙の持つ情報・一般的知識にもとづく推論の相互作用である」という考えに基づく理論を組み立てることでした

が、非印欧語である日本語にも当てはまるかどうかは、理論の普遍性を確立する上で重要な鍵を握っていました。また音声情報が構文理解に役買っていることをどのように理論に組み入れるかについても随分議論を重ねました。すでに確立されたものを学ぶのでなく、試行錯誤しながら理論を形作る過程に参加したことは、苦しかったけれども大きな意味のあることだったと思います。

私に子どもはいませんが、指導教授は息子たちのアトピーや反抗期に手を焼きながら、また自身癌の手術を受けながら、研究と教育を続けてきました。忍耐強く続けてきたことが大きな成果をあげたのは、健康を取りもどし、子どもたちが成人してからのことです。とても真似はできませんが、同じ女性研究者・教育者として、学問への情熱、学生への接し方など、多くのことを教えてもらったと思っています。

## ◇◇◇◇◇◇◇◇ 他機関の取り組み紹介 No.7 ◇◇◇◇◇◇◇◇

男女共同参画に取り組んでいる他大学・機関の事例を紹介するコーナーです。

## 九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク (Q-wea's net)

平成21年9月、宮崎・熊本・九州・佐賀・長崎大学の5大学の主催・共催大学に加え、大分・鹿児島・琉球大学の3大学も加わって8国立大学による第1回九州アイランド女性研究者支援シンポジウムが開催されました。各大学の理事、副学長等によるパネルディスカッションでは、「女性研究者の比率の増加」、「働きやすい、研究しやすい環境整備」をテーマに話し合われ、採用枠の設定などの積極的な意見も出されました。シンポジウムの最後に「Women Support 宮崎宣言」が採択され、ネットワークづくりと働きやすい、学びやすい環境づくりの推進が宣言され、連携のスタートが切られました。平成22年には、九州・沖縄アイランド

女性研究者支援ネットワーク (Q-wea's net) の情報発信もスタートしました。

平成22年9月の第2回シンポジウム、平成23年9月の第3回シンポジウムにおいても8国立大学の理事・副学長等によるパネルディスカッションが各大学持ち回りで行われるなど着実な連携が進んでいます。他の地域でも四国女性研究者フォーラム、北東北地域の大学連携など、採択機関が核となって女性研究者支援や男女共同参画の推進に取り組む大学間のネットワーク作りが進められています。



第2回九州アイランド女性研究者支援シンポジウム

## Information

女子高校生対象

農学部・女性研究者裾野拡大セミナーの開催  
「作物からDNA・RNAを抽出してみよう」

- 会場：3号館401講義室・第1実験室
- 内容：実験実習(DNA・RNAを抽出、電気泳動による核酸の確認)  
女子学生による講話「大学での研究生活ってこんな感じ！」

10月22日(土)  
9:00~16:00

## Information

女性研究者・学生・一般の方対象

医学部看護学科・Co-Medical 研究会 特別企画セミナーの開催  
「次世代を担う女性研究者の裾野を拡大するには」

- 会場：看護学科第1講義室・生命科学実験室
- 内容：女性研究者・大学院生と学部生との交流、研究紹介他  
特別講演：下田智子氏(北海道大学)、松田友美氏(山形大学)

11月12日(土)  
11:00~16:00

## Information

平成23年度男女共同参画シンポジウム

「女性研究者の活躍と裾野拡大  
～大学連携を通して～」を開催します。

- 会場：山形テルサ

11月11日(金)  
13:30~

女性研究者支援モデル育成事業最終年のシンポジウムとして、県内の大学等と共に女性研究者支援や男女共同参画について語り、今後の連携の道を探る機会とします。第1部は5大学によるパネルディス

カッション、第2部はパネルトーク「女子高校生☆夢に向かって！～女性研究者が疑問にお答えします～」を開催します。山形大学における3年間の女性研究者支援の成果や課題も報告いたします。

編集後記／震災のため例年より2週間短かった夏休みも終わり、学生がキャンパスに戻ってきました。山形大学では被災した学生が約300人に上り、支援の努力が続けられています。困難に耐え学業を全うしてほしいものと強く願っています。2011年10月



## 山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12 TEL 023-628-4937、4938、4939  
E-mail danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/